OSAKA SHOKO SHINKIN BANK

CSR

推進室だより VOL.27

想いをカタチに

「逆境」から『飛躍』へ

●会長インタビュー　片桐 陽

「コロナに負けない」応援資金助成団体発表

第14回社会貢献賞受賞団体発表

さくら賞受賞団体とのコラボ企画

ソーシャルビジネスローン：一般社団法人LGB.T

●子ども記者プロジェクトレポート

第５回まちづくり勉強会

●2020 下半期CSR活動報告

コロナ禍に見まわれた2020年、困難な状況に耐え忍ぶ中、なんとか現状を打破しようと
多くの中小企業やNPOが頑張っています。2021年、新たな年を、逆境に負けない飛躍の年に。

pixta

大阪商工信用金庫

逆境から、飛躍へ。

大阪が誇りを取り戻し、活力のある都市に。

○コロナ禍で多大な影響が出ておりますが、これからの金融機関はどうあるべきかについてお考えをお聞かせください。

新型コロナウイルスの影響もあり、企業経営は先行きが不透明になってきました。今後の業績予想はもちろんのこと少子化の流れの中で、後継者を誰に託せばよいのか、経営者の悩みは深くなっています。このような環境下だからこそ、金融機関は次の時代を見据えて、企業経営は如何にあるべきかということを経営者と共に考えていけるような存在にならなければいけないと思います。コロナ禍において企業も金融機関も大変厳しい環境に遭遇していますが、金融機関の役割はより一層重要且つ、責任重大になったと感じています。この逆境をチャンスと捉え、顧客と共に成長発展する礎にしなければなりません。その中で当庫は以前からM＆A・事業承継に力を入れ、職員に専門知識の習得を促し、お客様の課題解決に貢献し評価してもらえるよう努めてきました。多くの職員がそのように仕事に取り組まれることを期待しています。

○『金融機関として本質が問われていく』とは、どういうことですか。

嘗て金融機関の社会的役割が大きく期待される時代がありましたが、今は社会の金融機関に対する関心と期待が薄まっているように感じます。金融機関は社会の中で大切な役割であるのにもかかわらず、カネ余りの低金利時代で収益が上がらない時代となったこともあり、自己利益のみを求めようとする、いわゆる欲望資本主義ともいえる考え方が金融機関においても肥大化しており、資本主義がここまで利己的になってきたことを残念に思っています。本来人間はそうではなく、他者の事を大切にする社会になっていかないといけない。少なくとも大阪商工信用金庫はそういう組織でありたい。今の時代があまりにも利己主義、欲望資本主義の時代であるからこそ、人を思いやる経営をしたい。この想いに共感する職員が増えるとき、お客様の意識も変わる。そのような思いを込めて取組んでいるのがCSR活動です。

会長
片桐 陽

○今年で第15回を迎える「大阪商工信金社会貢献賞」について想いをお聞かせください。

世の中には大変な状況にある人が多くいます。コロナ下で職を失い、命を失っていく人も少なからずいます。我々は恵まれた環境の中で生きていますが、我々の知らない社会があります。その人たちの役に立ちたいという思いから、「大阪商工信金社会貢献賞」を創設しました。「懸命に生きようとする人と想いを共感する人はたくさんいますよ」ということを伝えること、知ってもらうことが大切だと思うのです。

○これからの当金庫職員への想いをお聞かせください。

冒頭にも言いましたが、コロナ禍において非常にお客様は苦しみ悩んでいます。
その中で何か少しでもお客様のお役に立てることをしたい。そのためには想いだけではなくプロとして技術や知識を磨いていく必要があります。金庫外の専門家の力も必要不可欠になってきます。そのような人たちとのヒューマンネットワークを作っていくことが大事だと考えます。そしてお客様の課題を解決していく組織を構築していくことが当庫の役割だと考えています。人間一人の力は限られています。周りの人の協力により、地域が変化していくことを実感するとき、職員が仕事を通して生きることの喜びを感じられるようになってほしい。そのような人を育てる組織、信用金庫にしたいと思います。

コロナ
なんかに
負けてられない。

「コロナに負けない」応援資金助成団体

新型コロナウイルス感染症拡大の中、地域金融機関として地域経済を立て直すと同時に
地域の人々を守ることも使命であると考えます。当金庫では地域の人々が必要としている支援を
自らの経済状況が厳しくとも活動をやめることなく、この状況下だからこそできる支援の在り方を
模索しながら提供し続けている市民団体等に敬意を表し助成金を通じて応援するものです。

理事長　岡﨑 憲司

特定非営利活動法人エスペランサ

子ども達が夢や希望にあふれ、笑顔で暮らせる社会を作りたいという思いから当団体を設立し、児童養護施設の子ども達に対して、イベントの企画・運営、物品提供、ボランティア活動を行うと同時に、児童虐待防止に向けた啓発活動をされています。
コロナ禍の影響により、各児童養護施設への出入りが難しくなり、子供たちが楽しみにしていたフットサル大会「エスペランサカップ」やクリスマス会の開催をやむなく断念しました。ですが、今までの活動ができない逆境に負けず、施設との繋がりを守る為に施設への消毒液やマスクの配布、子供や職員への衣類寄贈を積極的に行っています。
コロナ禍収束後には、今までの活動を再開させるとともに、子育てに悩む親御さんたちの集いの場づくり・引きこもりの方々を社会に出すきっかけづくりプロジェクト、高次脳機能障害の啓発活動講演会等、新たな試みを考えておられます。

代表理事　大槻 和夫

代表理事　位田 浩

認定NPO法人大阪精神医療人権センター

精神医療および社会生活における精神障害者の人権を擁護する活動を行うとともに、それを通じて精神障害者に対する社会の理解を促進し、障害の有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせる社会づくりに貢献されています。
対面式で行う面会活動や精神科病院への訪問が主な活動であった当団体ですが、コロナ禍の拡大により活動自粛を余儀なくされました。ですが、「オンライン面談」の導入を検討し、試行段階ではあるが入院者からは「顔を見て話せて安心できる」との感想があり、改めて顔を見てお話しすることの大切さを実感したそうです。今後、本格実施をする中では、これまで以上に複数の専門性を有する面談員の参加や、面談頻度の向上も可能になるということです。
ピンチをチャンスに変えるべく、今後は対面式（臨場感を伴った対話）とオンライン（効率的な業務打ち合わせ）を組合せ、現在大阪府内に集中した活動を、支援を必要とされている他府県の入院者にまで広げていけるよう取り組んでいくとのことです。

理事長　北條 達人

認定NPO法人国際ビフレンダーズ 大阪自殺防止センター

国際ビフレンダーズに加盟するボランティア団体として、人生における苦悩、孤独、絶望、抑うつにより、自殺の危機が迫っている人に対し、24時間傾聴と支援を提供し、自殺防止とともに相談員の養成も行われています。
社会的不安や外出できないストレスから、コロナ禍に関連した相談が増える中、感染予防のため高齢の相談員等が当センターへ来ることができないので、深刻な相談員不足に悩んでいました。ですが、相談事業を休止してはいけないという思いから、センター内での感染防止対策を徹底し、相談員不足の中、必死の活動を続けてこられました。
今後も、相談員を絶やすことのないように育成講座を継続して開講するとともに、相談員が自宅からでも相談活動をできるように、SNSを活用した新しい仕組みを検討しているそうです。

代表理事　中川 由希子

特定非営利活動法人
視覚障害者支援の会クローバー

いつでも行きたい時に行きたい所に自由に行ける「移動の自由」を叶えるため、手引き活動と啓発活動をされています。
利用者からの利用料は一切頂かない形で25年間活動をされてきた当団体は、寄付金や講師派遣料等で団体の活動を支えてきましたが、コロナ禍の影響でその大切な財源を確保することが難しくなっています。ですが、利用者からの「コロナが落ち着いたら、またクローバーに依頼して、色々な所に出掛けたい」という声に応えるべく、新たなボランティア募集や手引き講習を行っています。また、視覚障害者は、目の代わりに手で物を触って確認しながら行動するので、どうしても感染リスクが高くなってしまいます。なので、当団体では、除菌液の販売を開始するとともに、白杖にぶら下げることができる除菌液のストラップを作成し、購入者への特典としてプレゼントし喜ばれているそうです。

理事長　石井 智子

特定非営利活動法人
高槻子育て支援ネットワークティピー

一人でも多くの子どもたちがあたたかい愛情にあふれた家庭や地域で育まれるように、「ティピーおやこの広場」では、未就園児と親の交流・学習・情報交換の場として多くの子育て世代の方に利用されています。また、複合事業型子育て支援拠点「にじっこ」では、就園前のプレスクール、発達凸凹や子どもの発達を応援する事業、小学生対象の”てらこや”など、子ども・親子・ママ・パパ・地域の人たちが楽しく参加できるイベントや事業をされています。しかし、昨年の3月よりコロナ禍の影響を受け、「にじっこ」は今年３月で閉所することとなり、「ティピーおやこの広場」についても昨年4月の緊急事態宣言の期間は閉所。ですが、少しでも多くの方に利用して欲しいという思いから、「ティピーおやこの広場」は昨年6月から2部制の完全予約制での活動を再開し、新たにSNSを通した交流会の活動も開始されました。

代表理事　川辺 康子

特定非営利活動法人
西成チャイルド・ケア・センター

休業が決まった昨年3月2日からは、学校給食がなくなったことで、昼食をとれない家庭の子が多く、欠食への対応として日曜を除く毎日の昼食提供も開始されました。また、子供たちの学力保障に対する支援として学びの場を提供しています。
コロナ禍に負けず、活動を活発化させてきた当団体ですが、10年以上困難を抱える家庭との関わりの中で、一過性の支援では「砂漠にコップの水をいくら撒いても水たまりさえできない状態」であると感じており、次のステージとして、寄付を主な財源とした短期入所型支援事業を計画されています。
具体的には、要支援親子が支援者とともに一定期間生活をすることを通して、生活習慣の改善を促す事業「にしなり☆つながりの家」にて、親子を根幹から支えていくことを目標とされています。

代表理事　西川 奈央人

NPO法人西淀川子どもセンター

子どもたちをめぐる事件や出来事が続く不安のなかで、最も被害を受け、苦しんでいるのは、子ども自身です。西淀川子どもセンターでは、子どもが自分自身を大切な存在と感じ、安心して、納得した人生を送るための「地域に根ざした子ども支援」に取り組まれています。中でも、「いっしょにごはん！食べナイト？」は、夜を大人不在で過ごしがちな子どもへの支援として夕食を一緒に作って食べ、夜を過ごすという活動をされています。
コロナ禍による緊急事態宣言により中止せざるを得なかった活動も、寄贈された食品や物資の配布を兼ねた訪問支援へとすぐに切替え、支援を続けてこられました。活動再開後も人数制限や感染防止対策を徹底するために洗面台をリニューアルする等努力を続けてこられました。今後も、よりよい支援ができるように取り組んでいくとのことです。

会長　茂木 佐代子

藤井寺市朗読の会　ひびき

活字読書が困難な視覚障害者の方々に、録音図書を毎月作成し36年間発送を続けておられます。また、朗読講習会や子供たちへの月2回の紙芝居・読み聞かせも行っています。
今までは、市の生涯学習センターの録音室にて視覚障害者用録音をしていましたが、コロナの感染拡大を受け、読み聞かせの中止と多人数での録音活動が出来なくなりました。途絶えてはいけない「声の広報」だけは何とか届けたいと市役所に懇願し、初めての自宅録音に挑戦することにしました。しかし、今まで経験がなく容易なことではありませんでした。各家庭に必要な機材（キャプチャー・マイク・スタンド）を録音室から運び、悩み・戸惑いながらも少人数で録音、編集し視覚障害者の方々へお届けすることができました。これからも難しい状況が続きますが、ピンチと捉えずに、新しい方法で情報を待っていてくださる方々にお届けできるチャンスだと前向きに活動を続けられています。

理事長　森 実千秋（中央）

特定非営利活動法人淀川助け合い

「助け合いの精神」を大切にされてきた当団体は、地域全住民を対象とした、介護保険外の家事援助を有償ボランティアとして提供しています。ほかにも、認知症ケアへの市民参加の促進を目標とした活動を続けてこられてきましたが、さらに多くの方々に参加してもらえるようにと街づくり活動へと範囲を広げ、他のNPOと協力して展開しています。
コロナ禍の影響を受け、定例会や介護と医療の連携をめざす「堀塾」が、開催中止となりましたが、「コロナだけが課題ではない、介護の課題もそれに匹敵するほど大事」と考えた当団体は、家事援助の支援を変わらず続けるとともに、面会謝絶が相次いだ施設入所者への買い物等支援として、病室に入らず、看護師さんとの中継でのやり取りに変えるなどの工夫をして実施しました。
20年にも及ぶ活動を支えてきた「助け合いの精神」は、制度ではカバーできない課題を解決してきました。これからも、当団体はこの精神のもと、活動に取り組んでいくとのことです。

第14回「大阪商工信金社会貢献賞」〈受賞団体紹介〉

持続可能な社会の実現のために社会貢献活動に取り組む団体や、
社会課題・地域課題の解決というミッションを最優先に、公益性と事業性を両立させた事業、
または商品・サービスを顕彰し、その活動を支援する。
それにより国連で採択されたSDGsが掲げる
17の目標の達成を促進し、その取り組みモデルが各地に広がることを期待するとともに、
パートナーシップを通じて信用金庫が果たすべき地域社会との共生に寄与することを目的に、
第14回「大阪商工信金社会貢献賞」受賞団体が決定いたしました。
また、応募団体の中から、職員が応援したい団体を「さくら賞」として選定し、
職員の募金活動による「商工さくら基金」より応援資金を授与しています。
コロナ禍の影響で表彰式が延期となっておりましたが、感染予防対策を施し、
例年より大幅な縮小となりましたが、
昨年9月17日に当金庫商工信金ホールにて無事開催することができ、
皆さまにも喜びのお言葉をいただきました。

《地域貢献の部》

特定非営利活動法人エスペランサ

大阪府内のすべての児童養護施設と接点を持ち、数多くのボランティアを施設に派遣することで、施設でのこどもたちの生活を支えるとともに、自尊心や自己肯定感の低いこどもたちが自信を持って社会へ踏み出す力となるような体験を提供する。代表の熱い想いに賛同する仲間の輪がますます広がり、こどもたちの将来が明るく開けることが期待できる活動である。

公益社団法人こどものホスピスプロジェクト

命を脅かす病気を伴うこどもとその家族にこどもらしい時間と体験を提供する日本で初めてのコミュニティ型こどもホスピス。闘病生活も人生の一部であり、自身のやりたい事を叶える経験は生きる力となるかけがえのない活動である。関わった一人ひとりのこどもと家族に深く寄り添い、病状に配慮しながらきめ細かくサポートする施設とそれを支える地域の姿は今後の小児緩和ケアのあるべき姿である。

特定非営利活動法人災害救援レスキューアシスト

発災から72時間以内に現地入りし、災害救援のプロとして地元ネットワークを構築しながら避難所やボランティアセンターの運営や技術系災害ボランティア、要支援者の問題解決コーディネーターを務める。災害大国と言われる日本においても、災害経験のある自治体はほとんどなく、災害救援ノウハウを持つ当団体の存在意義は大きく、被災者とボランティアの視点に立った臨機応変な対応力による貢献度は高く評価される。

天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会

日本三大祭のひとつである天神祭が賑やかに行われる一方で、責任の所在のない膨大なごみが問題となっている。この問題に対し、約1000人ものボランティアが民間資金を投じて、分別を呼びかけ、回収活動を行うほか、関係者を巻き込みながらゴミの出ない仕組みを実践する取り組みは持続可能な祭の在り方を提案するものであり、全国のモデルとなることが期待できる。

特定非営利活動法人トイボックス

全国初の公設民営のフリースクールを通して不登校のこどもたちに多様な教育の場を提供するとともに、卒業後も視野に入れ生涯安心して暮らせるまちづくりを実現する。民と官の連携のほか、教育・まちづくり・福祉が一体となった長期的・マクロな取り組みは高く評価され、多様性ある教育の選択をこどもたちに提供する関西発のモデルとして全国へ展開されることを期待する。

特定非営利活動法人南市岡地域活動協議会

地域活動協議会として地域のこどもから高齢者までを対象に様々な取り組みを行う中で、要配慮者の住宅の課題が深刻であったことから、行政や民間企業と連携し入居斡旋とアフターフォローによる住宅支援を実施する。より急務な事案に対応するためサブリース事業やグループホームの運営に展開するなど、行政では対応しきれない課題を地域ごととして捉え、住環境改善に取り組む姿勢は高く評価される。

《ソーシャルビジネスの部》

認定NPO法人Homedoor

ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくることを目的にホームレス状態の方々の得意分野を活かす独自の「HUBchari」事業で就労支援と同時に放置自転車問題を解決する。ホームレス状態を脱出したい人の選択肢として路上からでも働ける仕事や個室型宿泊施設の構想を次々と実現するチャレンジは民間でつくる新たなセーフティネットのモデルケースであり、複雑な社会構造を変革することが大いに期待される。

特定非営利活動法人み・らいず

だれもが自分らしく地域で暮らせる社会を目指し、若い世代が中心となる福祉サービスと実践研究をとおして、長年真摯に福祉に向き合い、新たな福祉の創造にチャレンジする。設立20年を迎え、「み・らいず２」へとバージョンアップし、より早くこどもたちと出会える仕組みや、経済的な貧困だけでなく、文化的、社会的な貧困状態にあるこどもたちに対する新たなチャレンジへの期待感は大きい。

リタワークス株式会社

「人と社会に利他の心あふれる経営」を理念に、非営利活動を応援するファンドレイジングツール「コングラント」の提供をはじめ、他企業との協働によりクリエイティブ助成支援事業「SOCIALSHIP」を実施する。ＮＰＯ法人等の資金調達や情報管理等の課題をまるごと解決するシステム開発にかける当社の想いは強く、寄付文化を醸成し、ＮＰＯ法人等の活動に拍車をかけ、社会的インパクトの向上に貢献する事業である。

第11回「さくら賞」

アンコールプロダクション

シニア世代が人生の中で培ってきた経験や知識を活かして活躍する場を提供するシニア専門芸能事務所であり、高齢化社会において「二周目の人生を自立して楽しめる」社会を目指す。シニアが生きがいを見出すだけでなく、人生を謳歌するシニア世代に若者が希望を見出せる活動であり、若くしてこの活動に取り組む代表者への共感は厚く、代表者と高齢者の個性が光る活動である。

移動スーパーオオバ

スーパーの撤退、偏在により買い物に極端に不便な地域の住民と社会福祉協議会の熱い要望により、移動スーパーとくし丸を開業する。前職のケアマネージャーのネットワークと経験を活かし、買い物支援だけでなく、見守りや生活相談をも担う代表者への信頼は厚く、今や移動スーパーオオバは地域にかかせない新たな社会資源となっており、地域との協働の具現化を高く評価する。

さくら賞
受賞団体
とのコラボ企画

高齢者向け「スマホ教室」

●2020年11月11日

第11回「さくら賞」受賞団体である株式会社アンコールプロダクションが主催する高齢者向けスマホ教室を当金庫2階商工信金ホールにて開催しました。当日は、感染防止対策を徹底し、完全予約制ではありましたが、多くの方にご参加いただきました。スマホの操作方法などについて個別対応を行いました。受講者からは「帰ったらさっそく孫に写真を送ってみるね。」と言っていただき、講師として参加した当金庫職員にとっても、とても貴重な時間となりました。

「オリジナルエコバック・チラシ配布」

●2021年2月頃予定

第11回「さくら賞」受賞団体である移動スーパー オオバとの協働でオリジナルエコバックとチラシを作成しました。多くの方に移動スーパーや当金庫の活動について知ってもらうため、作成したチラシは当金庫の全支店窓口にて配布しました。また、オリジナルエコバックは折りたたんでもかさばらず、中身が見えないような色にするなど工夫をして一から作り上げました。ケアマネージャー事業所を中心に、デイサービス事業所などへの配布を予定しています。

自分らしく生きましょう。

一般社団法人LGB.T
代表理事
長崎 アンナ（麻倉 ケイト）氏

専務理事
叶 ともみ氏

代表の長崎さん自身が性同一性障害の当事者であり、
LGBTという言葉が広がる前から講演等、啓発活動を行っていましたが、
LGBとTの違いを理解していない人が多く、社会的に生きにくい
性同一性障害者に対しての認知とLGBとTの区別を込めた想いから
当団体を設立し、LGBT支援活動や啓発活動をされています。
当初は非営利活動法人という名の下、利益を求めることに違和感があり、講演も無料で実施していましたが、資金がないと社会貢献活動も継続して出来ないことが分かり、ソーシャルビジネスに力を入れ始めたそうです。
そんな中、何をしたいかと自問した長崎さんは昔からの夢の一つである「ウエディングドレスを着たい！」という思いがあり、ブライダル関係者に相談しましたが、公式の場で男性が女性の服を着て出たことがないからと断られました。しかし、そこで諦めず「前例がなければ作ればいい！」というモットーの下、トランスジェンダー向けブライダルショー「レインボーブライダル」を企画し実施しました。その中で、下着について悩んでいる当事者の声を聴き、心と体にフィットする下着としてトランスジェンダー向け補正下着「UNILALE」を開発されました。その開発資金の一部として当金庫より商工ソーシャルビジネスローンにてご支援させて頂きました。今後の展開としては特許取得済である海外への進出や、隠れトランスジェンダーと仮装体型に少しでも近づきたいコスプレイヤーを対象とした営業及び販路拡大にも注力し、多くの方に知ってもらうとともに、誰でも買える商品にしたいとおっしゃいます。また、「LGB.T　FRIENDS」という毎月500円の会費からなるコミュニティサイトにより、当事者のみならず、我が子の性の悩みを抱える親たちなどが相談できる場を提供すると共に今後も「自分らしく生きること」を理念にLGBTに対する正しい知識と理解を深め、すべての人の個性や人権が尊重される社会の実現を目指されています。

ソーシャルビジネスローンを利用した理由

活動を理解してくれていることと、SDGsの趣旨に賛同し、項目5「ジェンダー平等を実現しよう」を掲げている金庫であること。

取引支店である阿倍野支店担当者から一言

「このような社会的意義のある活動へのご融資に携われたことは光栄であり、今後も営業活動の柱として地域社会の為に取組んで参りたいと思います。」

札勘というお金を数える技!を見せてくれている土井支店長。

1　第1号　子ども街新聞　2020(令和2年　10月発行)

2020(令和2年)10月

子ども街新聞

子ども街新聞
Codomotoのまちっち
発行　まちっち
協力:大阪商工信用金庫
後援:阿倍野区

一般社団法人codomotoのまちっち
https://codomoto.jp/
1546-0001 大阪市阿倍野区長池町22-7-12
TEL:050-3708-4807(平日10:00~14:00)

記者講座で記者の仕事を学ぶ

まずは記者講座で「新聞ってどうやって作るの?」「記者のお仕事って?」などと、新聞づくりの基本を学びました。「新聞にはどんなことが載っているか知ってる?」という質問には「コロナのこと!」「事件!」「テレビの番組の表が載ってる!」などそれぞれが答えてくれました。

令和2年8月11日(火)、12日(水)の2日間にわたり、あべの駅にある「大阪商工信用金庫(阿倍野支店)」にて「子ども記者プロジェクト」が実施されました。

プロジェクトには阿倍野区に住む小学4年生から6年生の計6人が参加。はじめての取材活動を体験しました。

6人の子ども記者のみなさん。

お金クイズにチャレンジ!

続いては、大阪商工信用金庫の貴志さんと藤村さんによる「銀行のお仕事」講座です。「お金クイズ」でウォーミングアップ!　みなさんにお金と銀行のお仕事についての下の問題にチャレンジしてみてください(答えは2のページの一番下)

Q クイズ

①1万円札で1個円の重さは何°。グラム?

②日本で現在使われているお金(おれとコイン)は何種類?

③銀行は預かったお金をどうしているのでしょうか?

お金を数える機械は、にせ札もすぐに見分けると聞き、びっくり!

Kids Reporter

子ども記者プロジェクト実施!

2日目はいよいよ取材!

まずはふだん入ることのできない「銀行の裏側」を見学。お金をあつかう「神」に数える機械やお金を引きだす機械(「ATM」)の裏側まで見ることができ、みんなのテンションも上がりっぱなしです!

見学の後は、各チームにかれて担当者への取材を実施。緊張しながらもしっかりとお話を聞き、最後は力を合わせて各チーム1ページずつの新聞づくりに取り組みました。次ページより各チームの記事を掲載しています。

銀行のお仕事&しくみを学ぶ

その後、「銀行のお仕事の一つ、『お金を貸す』というお仕事について、どのようなことになっているか、お年玉とケーキ屋さんを例にしてわかりやすく教えてもらいました。

取材準備にとりかかる

1日目の最後に、3チームに分かれ、それぞれがどのテーマを取材するか決定。取材ノートに質問を書き込み準備を進めました。

3チームのテーマ

A チーム「貸出」のお仕事
B チーム銀行のうら側調査
C チーム支店長インタビュー

各対談にもチャレンジ!

その場で出た疑問もしっかり質問。

A お金クイズの解答　①10°。グラム(1万円札は1枚1グラムなんだって!)　②10種類(お札が4種類、コインが6種類です)　③借りたい人に貸す(そのしくみは2ページを見てね)

『子ども記者プロジェクト』を開催しました。

第7回「さくら賞」受賞団体である一般社団法人codomoto ままちっちさんとの協同事業にて、阿倍野区に住む小学生4～6年生の計6人を対象に夏休み企画として『子ども記者プロジェクト』を当金庫阿倍野支店にてコロナ感染予防対策を施しながら実施しました。

『子ども記者プロジェクト』では参加者の小学生へ団体代表の林さんによる『記者講座』にて新聞はどうやって作られているのか、記者の仕事とはなど、新聞づくりの基本を学び、次に当金庫職員による『銀行のお仕事講座』においてお金のクイズをはじめ、子どもたちがケーキ屋の社長として事業計画書の作成を行うなど、貸出の仕事についても学んでいただきました。

実際の取材体験では「貸出のひみつにせまる!!」「銀行のうら側をしってみよう」「支店長に突撃!インタビュー」の3つのテーマを設け、子ども記者として阿倍野支店職員に対しはじめての取材活動を体験しました。子どもたちが取材し作成した記事は団体編集のもと、『子ども街新聞』として阿倍野区の小学校や図書館等に配布されました。

本プログラムを通して、次世代の子どもたちへ実践型の学びの場を提供し、『子ども街新聞』を作成する為の「コミュニケーション力」や「考える力」、「企画力」に加え、金融知識も学んでいただくことが出来ました。

まちづくりで果たす銀行の役割は何か?

【第５回まちづくり勉強会】

2020年9月26日(土)大阪ボランティア協会にて「第５回まちづくり勉強会」が開催され、当金庫会長 片桐 陽が講師として参加しました。

　このまちづくり勉強会は、「本気でまちづくりをするには本音で語り合わなければならない」と感じたNPO法人淀川助け合い　理事長 森 実千秋氏と市民後見人・元大阪市淀川区北中島地域ネットワーク委員会推進委員 川内 ツキコ氏が立ち上げた会です。勉強会では、毎回違う講師の方が講演を行った後、参加者による多種多様な視点から見える課題について、活発な意見交換を行っています。理念を共有する様々な業種の誰もが一個人として参加できます。

まちづくり勉強会の理念は以下の5つからなります。

1. 本音で語り合います
2. 政治的課題もとりあげます
3. 超党派の立場で議員と共に活動します
4. すべて個人参加とします
5. 勉強会では、他者の意見を批判しません

上記理念をもとに、勉強会を実施し自由な発想と確かな行動力でよりよいまちづくりを行っています。

　当日は、「私が理想とする銀行」～まちづくりで果たす銀行の役割は何か～というテーマで片桐会長が講演を行いました。片桐会長は当金庫が毎年実施している大阪商工信金社会貢献賞を設立した経緯を説明し、「社会貢献賞は銀行の宣伝のためではなく、業績を上げるためには何をしても良いのではない。銀行の役割は社会貢献である」ということを職員に伝えるための教育として実施しているのだと語っておられました。

　また、「コロナ危機で今後は本物が残る」という信念のもと、「乗り切れるから苦労があるのだ」「明けない夜はない」と自分に言い聞かせ、前進していきたいともおっしゃっていました。

2020下半期
CSR活動報告

マネースクール

●2020年10月15日&10月23日

大阪市立西船場小学校と大阪市立福島小学校の4年生(合計197名)を本店にお招きし、「マネースクール」を開催しました。今年はコロナ禍の影響で、開催中止も検討していましたが、小学校側の強い要望もあり、小学校及び新入職員、CSR推進委員金融教育チームが協力し、充分な感染対策を施しながら実施しました。当日は、クイズや劇・体験学習を通じて子どもたちにお金の大切さや経済の仕組みについて学んでもらいました。また、当金庫職員にとっても、改めて信用金庫職員としての責務や働く意義について見つめ直す良い機会となりました。

NPO法人勉強会

●2020年11月24日

各支店のCSR推進委員を中心に事務局を含め25名参加にて、勉強会を実施しました。当日は、新居合同税理士事務所 新居　誠一郎　税理士をお招きし、NPO法人について講義をしていただきました。NPO法人の会計や税務等について詳しく学ぶことができ、職員一人一人がNPO法人への理解を深める良い機会となりました。また、当日の様子をビデオで撮影し、多くの職員と共有する予定となっています。

大阪商工信用金庫 経営企画部CSR推進室
〒541-0053大阪市中央区本町2丁目2番8号TEL(06)6267-2865

2021年1月発行
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー